

## 国際子ども図書館所蔵のトルコ語資料についてブックリスト作成にあたっての報告書

平成 22 年 2 月 28 日

報告者 片桐早織

### 1. はじめに

トルコ語資料ブックリスト作成にあたり、貴館所蔵のトルコ語児童書および児童書関連資料について、基本資料の有無、蔵書構成等において調査させていただきました。以下にその結果を述べさせていただきます。

### 2. 国際子ども図書館所蔵のトルコ語資料の評価、所見

結論からいえば、ほぼ基本資料はそろっていると思われます。主な文学賞、画家賞の受賞作品、Orhan Kemal、Nazım Hikmet、Ömer SEYFETTİN などの重要な文学者についての資料、および Muzaffer İZGÜ などのベストセラー作家の著作、詩集、マサル（お話、民話）の研究書、そして児童文学に関する研究書があるからです。特に YA（ヤングアダルト）部門は充実していると思われます。

しかしペーパーバックの YA 書籍に比べ、他の書籍の比重が小さいように思われます。以下に不足気味と思われる資料の種類、また加えた方が良いと思われる書籍について述べさせていただきます。

#### ①絵本資料

ノンフィクションを含め、絵本の数が足りないようです。Feridun Oral、Nazan Erkmén、Mustafa Delioğlu、Betül Sayın、Kağan Güner ほか IBBY による国際アンデルセン賞オナーリスト、ボローニャ国際絵本原画展、ブラチスラヴァ絵本原画ビエンナーレなど、様々な賞にトルコ人受賞者がおります。特に Feridun Oral は活躍していますが、残念ながらその書籍が所蔵されていないようです。また受賞者以外にも見ごたえのある絵本が数多く出版されています。

#### ②トルコの民話「KELOĞLAN（ケローラン）」（髪の毛のない男の子）

トルコの民話と言えばまずナスレッディン・ホジャが挙げられます。日本で最も広く知られ、また翻訳されているのもこのホジャの昔話です。ですがトルコの民話はホジャだけではありません。トルコの人々の間で広く長く伝えられてきた民話の代表として、他にケローランとカラギョズがあります。カラギョズは影絵芝居などで上演されるのが主ですので、ここでは省きますが、ケローランは重要です。トルコのNHKに相当するTRT（トルコラジオテレビジョン）においても、子ども向け「昔話」番組はケローランに終始するほどです。ホジャの資料は Mustafa Delioğlu の挿絵の豪華本ほか何点か所蔵されていますが、ケローランはあまり所蔵されていないようです。ホジャ同様に様々な版が数多く出版されていますので、所蔵なさることをお勧めします。

### ③マサル（民話）の研究書

トルコには非常に数多くのマサル(民話)があり、P.Naili BORATAVをはじめ Nuri TANER、Tahir ALANGU など、これまで多くの研究者が収集、再話にあたってきました。所蔵されている書籍にも、それらのマサルが数多く含まれています。マサルの研究書も所蔵されていますが、より多くの研究書が必要と思われます。例えばトルコの児童書には、『Deve Tellal Pire Berber İken... (ラクダの仲買人が蚤の床屋だった頃…)』のように、マサルのテケレルメ（物語の導入などに用いられる常套句）を用いたタイトルが多々あります。テケレルメの知識が無ければ、それが昔話であることも判別できません。

### ④トルコの子どもたちの生活、文化に関する資料

研究者が児童文学の背景を知るのに役立つ、またトルコの子ども自身が自国の文化を知るのに必要な資料があった方が良いでしょう。トルコの場合はイスラームに関する基本知識が不可欠です。世俗主義の国とはいえ、99%がムスリムであり、宗教的な行事、思考が生活に密着しているからです。

したがってキリスト教の子ども向け「聖書物語」に相当する「預言者物語」、またクルバン・バイラム（犠牲祭：神に羊を供物として屠り捧げ、その肉を貧しい人に分け与えるお祭り）、シェケル・バイラム（断食明けにお菓子をお土産に親戚などを訪ねあうお祭り）などの宗教行事、およびノウルーズ（イラン系文化の新年のお祭り）などの民俗的な行事を題材にしたものが有益だと思われます。またフィクション、ノンフィクションを問わず、歴史、地理、叙事詩など「トルコ人なら誰でも知っていること」を題材にした子ども向けの書籍があればなお良いと思います。

### ⑤シリーズものについて

Muzaffer İzgü 著『Anneannemin Akıl Almaz Maceraları (むこうみずなおばあちゃんの冒険シリーズ)』や Ayla Çınaroğlu 作『Korudaki Komşular (小さな森の隣人たち) シリーズ』などシリーズものでありながら、巻がそろっていないものがあります。可能であれば、やはり全巻揃っていた方が望ましいと思われます。

## 3. ブックリスト作成の作業経過

上記に挙げたことを考慮しつつ、児童書に関する賞の受賞作と、受賞作家の受賞作以外の作品を中心にブックリストを作成しました。作成上参考にしたのは国際子ども図書館蔵書、ACCU（ユネスコアジア文化センター）蔵書、日本・トルコ・中央アジア友好協会蔵書、私個人の所有本、IBBY国際アンデルセン賞オナーリスト、ボローニャ国際絵本原画展バックナンバー、ブラチスラヴァ絵本原画ビエンナーレバックナンバー、野間絵本原画展バックナンバーなど、およびインターネットによる情報です。在日のトルコ人や、現在トルコ留学中の友人からの情報も活用しました。方法としては、①前述の資料から作家およ

び画家を検索する②トルコの「作家」「画家」「児童文学作家」「詩人」「マサル研究者」等をキーワードとして検索する。（これらの 2 項目から 5 項目を兼ね備えている作家が多いため。）③上述で得た情報から作家の受賞歴、受賞作品、関連項目を検索する。④書籍検索で作品の内容、あらすじ、対象年齢などの詳細データ、およびハードカバーか否かなどの書籍仕様をチェックする。以上の手順で行いました。また TÜRKİYE ÇOCUK DERGİSİ AYDA BİR YAYINLANMAKTADIR、iyi Kitap ほか複数の子どもの向けサイトも参照しました。これらの検索結果から、1) トルコの児童文学史上重要な作家の作品、民話、伝説。2) 日本語に幅広く紹介されているオリジナル作品（ホジャがこれに当たります）。3) 1 の作家による他の児童向け作品。4) ノンフィクションもの子ども向け良書。5) 主な児童向け百科事典。6) ABC ブック。7) 児童文学理論書など子ども文化研究用資料などをリストにあげました。なおトルコでは日本の作品をオリジナルとする翻訳ものは出版されていないようです。また児童文学事典等は未だ出版されておりません。リストの書名（邦訳）ですが、原タイトルで、言葉の響きを重視したもの、および同音異義語が多く誤訳の危険のあるものは、訳さずに翻字にとどめてあります。

#### 4. トルコにおける主要な児童書賞

トルコの児童書に関連する賞は、実に多く拾いきれないほどです。そのなかでも主要な賞は下記の通りです。

- ・ Rıfat Ilgaz Çocuk Edebiyatı Öykü Yarışması

（Rıfat Ilgaz 児童文学短編小説・物語コンテスト）

主催団体： Çınar Yayınları（Çınar 出版社）

受賞対象： 8 歳から 12 歳の児童を読者対象とする短編小説、物語。

- ・ GÜLTEN DAYIOĞLU ÇOCUK VE GENÇLİK EDEBİYATI ÖDÜLLERİ

（GÜLTEN DAYIOĞLU 子供と青少年文学賞）

主催団体： Güten Dayıoğlu Çocuk ve Gençlik Edebiyatı Vakfı

（Guten Dayıoğlu 児童青少年文学財団）

受賞対象： 就学前の子どもから青年層を読者対象とする童話、詩、物語、小説。

- ・ TUDEM Çocuk Edebiyatı Yarışması

（Tudem 出版社児童文学コンテスト）

主催団体： Tudem Yayınları（Tudem 出版社）

受賞対象： 8 歳から 12 歳の児童を読者対象とする小説、詩、物語。

- ・ 国際アンデルセン賞オナーリスト

主催団体： Çocuk ve Gençlik Yayınları Derneği

（ibby トルコ支部）

- ・ Koç Vakfı Öykü Ödülü

（Koç 財団短編小説・物語賞）

主催団体： Koç Vakfı（Koç 財団）

- ・ Nesin Vakfı Çocuk Edebiyatı Ödülü  
（Nesin 財団児童文学賞）

主催団体： Nesin Vakfı（Nesin 財団）

他にも様々な ÇOCUK EDEBİYATI ÖDÜLLERİ（児童文学賞）があります。下記に主な受賞者を列挙します。Aşkın Güngör、Ayla Çınaroğlu、Ayla Kutlu、Aysel GÜRMEK、Aytül Akal、Behiç Ak、Betül Sayın、Cahit Zarifoğlu、Can Göknil、Dursun Ege GÖÇMEN、Fakir Baykurt、Fatih Erdoğan、Gülten Dayıoğlu、Hasan Latif、Huban Korman、Hüsnan ŞEKER、Mavisel Yene、Mehmet Güler、İpek Ongun、İsmet Bertan、Mevlâna İdris Zengin、Mustafa Delioğlu、Mustafa Ruhi Şirin、Muzaffer İzgü Nazan Erkmek、Nural Birden、Nur İçözü、Serpil URAL、Sevim Ak Seza Kutlar Aksoy、Pakize Özcan、Tarık Dursun Kakıncı、Ümit Ögmel、Üzeyir Gündüz、Yalvaç Ural、Vartan İhmalyan

トルコ国内での児童書に関する出版協会、文学者協会などは下記のもの挙げられます。

- ・ Çocuk ve Gençlik Yayınları Derneği（ibby トルコ支部）
- ・ Gülten Dayıoğlu Çocuk ve Gençlik Edebiyatı Vakfı  
（Gülten Dayıoğlu 子どもと青少年財団）
- ・ Çocuk ve İlkgençlik Kültürü ve edebiyatı Araştırmacıları Derneği  
（子どもと青少年の文化・文学研究協会）
- ・ Nesin Vakfı（Nesin 財団）
- ・ Çocuk Vakfı（子ども財団）
- ・ Ankara Üniversitesi Çocuk ve Gençlik Edebiyatı Uygulama ve Araştırma Merkezi  
{アンカラ大学子どもと青少年文学応用研究センター}
- ・ Kültür Bakanlığı Çocuk Yayınları Yayın Kurulu  
（文化省児童出版物編集委員会）

## 5. トルコの児童書資料の特徴

トルコの児童文学の特徴は、まずマサル（お話）が主であるということです。民話に限っても、オスマン帝国時代の広大な領土を背景に伝えられてきたその数、種類は非常に豊富です。また地域的な広がりだけでなく、トルコの児童文学では歴史的なスパンが長い作品が目立ちます。例えば Betül Sayın 作『5 Çocuk 5 İstanbul（5人の子供、5つのイスタンブール）』は、現代からヒトの居住が始まった頃まで遡って物語ります。またヒッタイト時代（紀元前2000年頃～）、チャタルヒュク（紀元前6000年頃）、更に叙事詩など遊牧時代を題材にした作品も数多くあります。民族としての長い移動の歴史と、現在トルコ領である土地の歴史の古さが、そのような作品を生むのでしょう。更に建国の父アタチュルクや、戦争の功労者を題材にした、愛国心が強く表れた作品もトルコの児童文学の特徴の

ひとつと言えます。

## 6. 児童書及び児童関連資料の出版、入手状況

最近ではトルコでも児童書の出版は盛んです。前述の諸団体や各出版社が児童の教育と文化の向上を目指し、様々な賞と賞金を設定し出版を図っています。

問題は書籍の高価さにあります。トルコの物価の安さを考えれば、書籍、特に児童書は贅沢品の部類に入ります。加えてトルコでは一般に読書が盛んではありません。トルコの新聞では「Türkler 10 yılda 1 kitap okuyor（トルコ人は10年に1冊しか本を読まない）」（2009年07月30日付 Radikal紙）と報じられているほどです。このことが書籍の高価さ、情報の少なさ、入手の困難さの原因になっていると思われます。

しかし以前に比べれば、児童書の出版が格段に増えていることは確かです。前述の **Guten Dayıoğlu** 児童青少年文学財団が2007年に設立していることに見られるように、トルコにおける児童書の出版は今後ますます盛んになっていくことでしょう。

最後に調査、情報収集にあたりご協力くださった方々、そしてご依頼くださいました国際子ども図書館に、篤くお礼申し上げます。